

一日のはじまりに掛ける言葉

校長 神保 幸次郎

真夏日に迫るような日もあれば、梅雨を思わせるように雨が続く日や五月晴れの日もありました。五月晴れは「五月のすがすがしい晴れ」として使われることが多くなりましたが、もともとは「梅雨の晴れ間」のことだそうです。

その様な気候の中、子どもたちは蓮の根などを植えたり、遠足に行ったり、体力テストに取り組んだり、休み時間には元気に遊んだりなどアクティブに活動しました。雨の日には教室で読書をしたり友達とおしゃべりを楽しんだり、その時にあった遊び方をしていました。

学校はどの子どもも元気に登校し、困った事があってもそれを乗り越え、楽しく生活し学んでほしいと願っています。この願いは保護者も地域の方々も同じことでしょう。そのために一日の始まりに掛ける言葉はとても大きな役割をもっていると考えています。

「おはようございます」、私は校門で明るく和やかに登校してくる子どもたちに声を掛けています。少し遅れて登校してくる子にも同じように声を掛け「いってらっしゃい」と付け加えます。気になる様子があるときには、名前を呼んで「どうしたの?」と尋ねることもあります。

子どもたちは、自分から元気にあいさつをする子、屈託なくあいさつをする子、友達とのおしゃべりに夢中になって素通りする子、目を合わさずにあいさつする子、「おはようございます」の音が聞こえない子など、実に様々です。

朝、お子さんは家でどのようなあいさつを交わしているのでしょうか。ご家庭で朝の始まり方は様々だとは思いますが、近年は生活がさらに多様になり、ご家庭によってはお子さんが最後に家を出ることも珍しくはない時代です。だからこそ学校に来たときには、「互いに良い一日を」と「今日も豊かな学びを」という思いを込めて「おはようございます」、「いってらっしゃい」と言葉を掛けています。

あいさつは心の扉を開くノックや鍵と言われるように、自分にも相手にとっても心豊かな関わりのはじまりの言葉とも言えます。そして、自分から快いあいさつを言えることは生涯に渡って豊かな人間関係を保つためにも欠かせないことです。

中台小学校の子どもたちが、あいさつが素晴らしい子といつまでも言われつづけられるよう、あいさつを大切にしていきたいと、いつも、いつも考えています。



6月は「ふれあい月間」

「ふれあい月間」は、いじめや不登校、暴力などの問題行動を未然に防止し、子どもたちの健全育成をめざす取組で、6月、11月、2月に設定しています。先だって5月の土曜授業では全学年で「いじめ防止授業」を実施し、授業公開をしました。

実施後の保護者アンケートより、関連した感想を紹介します。

- ・ありがとうと伝えること・ありがとうと言われること。その経験値が増えると、周りが見えて世界も広がっていくと思うので、いろいろ経験させたいと思います。
- ・低学年のうちからの教育で、いじめは恥ずべき行為だという考えをしっかりと根付かせることは大切だと思います。
- ・知っていることを声に出して相手に伝える大切なことを教えていただけて感謝しています。

※このほかに課題についてもちょうだいしました。改善にいかしてまいります。



